

夢の情報化社会の光と影に関わる見方や考え方を深める学年指導の在り方

—学校放送番組を活用したモラルの育成から交流学習の実践—

羽衣学園中学校・高等学校 教諭 米田 謙三

kenzoo@cd5.so-net.ne.jp

キーワード：放送番組、ICT活用、交流学習、モラル育成

1. はじめに

高度に発達した情報化社会は、利用者により効果をもたらす光の部分と、利用者に害をもたらす影の部分がある。このように新しいメディアが独自の社会を形成しつつある一方、教育現場における情報関連科目では、これらのメディアは適切に取り上げられているだろうか？インターネットや携帯電話など日常生活と学校での生活環境の間にギャップが深まってきていることは否定できない。今回はこれらのギャップを正すべく「情報A」の指導要領における「(4) 情報機器の発達と生活の変化」の単元の中で、学校放送番組と映像教材をもとに、ルール・マナー・モラルという考え方を指導した。また、新指導要領「社会と情報」の目標も意識して、学んだことをもとに国内・国外の交流学習へつなげた。

2. 授業のねらい

2. 1 概要

校内での情報科の教員の連携を図り、高2全クラスに対して、以下のような指導を計画した。

①学校放送番組（NHKデジタル教材「10min. ポックス情報」）（図1）と映像教材の「ネット社会の歩き方・5分でわかる情報モラル指導」（CEC）、「ケータイ・インターネットの歩き方」著作権編（一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構制作）をもとに指導を行う。②携帯電話のモラルの講演会を保護者も巻き込んで実施し、保護者にも一部の教材を見ていただき上記内容を共有していただく。③生徒には番組から学んだことをプレゼンテーションソフト用いて個人、グループでまとめさせ、国内（東京、沖縄など）や海外の学校（文部科学省ユネスコスクールと連携したシンガポール、中国、アメリカ、台湾など）には英語に翻訳し発信する。④9カ国との海外青年協力隊の方とのブログを立ち上げいろいろなテーマ設定し意見交換を実施する。（大学生にも授業サポートしてもらう）これらの活動を通じて日々進歩を続けるメディアに焦点をあて、通信の仕組み、電子メールやブログの仕組みなど、情報通信ネットワークの仕組みの理解を基礎知識とした上で、社会生活の中でのネットワーク利用の利便性、新しい技術、活用の際の危険性について学習する。またその中で、今後新しいメディアとどのような関係性を持ちうることができるのかも考えさせる。ただし、影にばかり焦点がいかないように情報化社会の光についてもしっかりと認識できるようにする。



図1 NHK番組

「10min. ポックス情報」

2. 2 成果目標

今回は、“学習目標”として以下の5項目を挙げた。

- 1) 学校放送番組や映像教材の視聴をもとに、インターネットや携帯などで身近となった情報通信ネットワークについて、その仕組みを理解する。
- 2) 学校放送番組や映像教材の視聴をもとに、現在の情報通信ネットワークを取り巻く危険や懸念などを知り、情報セキュリティの重要性を理解する。（保護者も含む）
- 3) 学校放送番組や映像教材の視聴をもとに、情報通信ネットワークを利用する上で必要となる、ルール・マナー・モラルについて理解を深める。（保護者も含む）
- 4) ネットワーククリテラシーや、主体的に学ぶ意欲、問題発見・解決能力を具体的な海外との交流学習などを通じて身に付ける。
- 5) 大学の学生や外部の講師との交わりの中から、情報活用の実践力を高める。

3. 情報の授業の取組

3. 1 1学期

情報機器の使い方を確実に習得し、機器に慣れよう

- ・ネットワーク利用のきまりを学習する
- ・データ集（CD-ROMなど）やインターネットなどをを利用して情報を自分で収集する
- ・SNSの使い方とマナーを知る
- ・全校対象のモラルに関する講演会を実施する
- ・情報を目的に応じて検索し、収集した情報の中から目的に合った情報を選択する
- ・情報モラル指導補助教材として、Web上による提示教材や模擬体験教材、映像教材などを利用する

3. 2 2学期

自分達で情報を作成し、発表しよう

- ・スキヤナやデジタルカメラ等の周辺装置を利用し、文章と画像等を組み合わせた資料を作成する
- ・発表資料をまとめる
- ・電子メールを利用した他校との交流活動開始する
- ・外部講師による授業を実施する
- ・交流学習の準備をする
- ・私学の研究会でCECネット社会の歩き方の研修などを実施する

3. 3 3学期

外部交流を盛んにしよう

- ・インターネットなどの通信を利用して情報交換する
- ・Webページ・電子メールで情報を発信するためのマナーや個人情報、著作権の保護を再度学ぶ

- (情報モラル指導補助教材として、ウェブによる提示教材や模擬体験教材、映像教材を利用する)
- ・画像や動画を利用して表現する活動をする
 - ・TV会議を利用した他校（海外含む）との交流をする（電子黒板やiPad 2などを活用する）（写真1）
 - ・プレゼンテーションソフトを利用して発表する活動をする

4. 交流学習

4. 1 第1フェーズ

- 1) テーマ設定のための教材・ソフト学習
- 2) ネットワーク利用のきまりを学習（教員側も含めて）データ集（CD-ROMなど）やインターネットなどを利用して情報を自分で収集

4. 2 第2フェーズ

- 1) TV会議や掲示板を利用し、他校との交流開始（情報の発信）

2) 大学・産学連携

専門家による授業：モラルの問題について
大阪大学との連携授業：海外の学校と交流学習
大阪私学教育情報化研究会主催 高校生ケータイ熟議参加（3回実施）

4. 3 第3フェーズ

- 1) プrezentationの作成 専門家による生徒向けに助言・指導（TV会議など）



写真1

Pad 2を活用したTV会議

今年はアメリカ、台湾との会議を頻繁に実施

国内：プレゼンの途中報告・小学生の英語のサポート・学園祭展示・地域での発表

国外：異文化交流 北京中国人民医院附属高校訪問に対して2名の受け入れ

アジア16カ国参加ユースサミット6日間参加

- 3) 海外研修活動 12月3日～11日 高2全クラス オーストラリア 修学旅行

- 4) 校内・校外で現在の活動を発表（プレゼンテーション大会などで発表・評価）

4. 4 第4フェーズ

- 1) 海外の生徒との交流の継続（TV会議やメール、Webサイトの活用）海外研修活動

希望者研修①マレーシア12月②台湾10月と12月 それぞれホームステイ含む（写真2）

- 2) プrezentづくりの完成・振り返り

TV会議や掲示板での意見交換（情報の分析）

- 3) 実際の活動 ボランティア活動



写真2 海外の学校とのTV会議

5. 実践の工夫

学年全体で実施するため共通のワークシートを作成し、違う教員でも同じ内容で授業を実施できるようにした。また映像教材はWeb配信を活用し、準備の手間がかからないで同じものを同じ時間で全生徒に見せることができるようとした。校内の教員には、10月実施の大坂私学教育情報化研究会でのCECの情報モラル指導セミナーに参加してもらい校内の参加できなかった教員にも広めた。交流実践では、高大連携（関西大学、大阪大学）にもサポートいただき、iPad2を用いてのテレビ会議や海外の青年協力隊とのブログの実践や掲示板などを用いて本物の交流を実施できるようにした。また、ブログや掲示板はCMSの機能を使ってどこからでもアクセスできるようにした。特に交流学習では、自分の言いたいことや伝えたいことをいかに簡潔にまとめるかということも意識させた。写真的取り方や選択など情報の収集、選択、編集に関しても考えさせた。また核となる高校生を私学の研究会のケータイ、ネットの熟議に参加させ、企業の方や他校の先生からも学ばせるようにした。

6. 実践の成果

学んだことを実践する交流・プロジェクト学習を実践することによりネットワークリテラシーを育み、生徒たちが、主体的に学ぶ意欲や問題発見・解決能力を育むことができ、言語と映像の往復を生徒は身をもって体験する事ができた。また教員のみならず生徒たちも、価値観に支えられ相手のある達成感から、停滞しがちだった学習活動をより活発にすることが可能になった。

校内である程度同じレベルの授業を情報科の教員ができるようになり評価基準も確立した。また国内の小学校や高校と著作権など同じテーマで授業を実施することができたことで、これから教科と総合が融合したカリキュラム開発の視点の一助になったと確信する。また熟議の会に核となる生徒を参加させることにより企業の方の考え方や他校の生徒、先生のネットに関する意見を聞きさらに視野を広げ新しい考えをもつことができるようになった。

生徒もさらに深く考えて行く必要性を持ち、これからの夢のある社会へケータイやネットワークをいかに活用するかという視点を持つようになったという意見も出た。（代表生徒2名が、実際に総務省と文部科学省にてプレゼンする大変貴重な経験もいただいた。）